

千代田中学校だより

# 自ら一步前へ

平成30年9月27日

第16号

一人ひとりが輝き

校長 山田正彦

笑顔と感動があふれる学校

## ふるさとの良さとお話のつながりを

総合的な学習の時間の取組のテーマの



【お話をされる役場の方】

一つに「ふるさと」があります。1年生は、「私たちの住みたい町」について考えて提案する取組を行っています。自分達で千代田地域の良いところや課題をグループに分かれて調べて整理し、その交流をしました。そして先日、実際に千代田地域に定住され、北広島町の町づくりに携わっている3名の方から、千代田地域の現状や魅力などについてお話を聞かせていただきました。2



【職場体験中の生徒】

年生は、職場体験学習を夏休みに行いました。千代田地域34事業所の皆様のご協力をいただきました。体験を通して仕事の厳しさや喜び・やりがい等を知り、働くことの意義を考える。将来の夢を膨らませるきっかけになった生徒もいたのではないのでしょうか。また、千代田地域の仕事を知ることが、ふるさとを知ることにもつながると思います。3年生は、「ハートフル千代田」と題して、福祉施設



【施設でソーランを披露】

交流を大きな目標に1学期から取り組んできました。その社会に奉仕する活動を通して、地域に目を向けたり、思いやり心を育て、「福祉」への関心も高めたりできたらと思います。また、他者と関わることで、ともに協力し合って生きることの重要性を体感できたのなら、そのことも中学校生活や将来の生活に生かせると思います。

1学期行った保護者アンケートの中に、「お子さんは、将来北広島町に住みたいと思っていますか？」という項目がありました。肯定的な回答は38%でした。中山間地域に位置する学校において、この割合が低いのか？高いのか？はよくわかりませんが、4割近くの生徒が将来ここ北広島町で活躍したいと考えていることに、少しホッとしました。現在の町の高齢化率を考えれば、7~8割の生徒が「将来北広島町で…」と考えて欲しい気持ちはあります。それぞれ将来の夢や目標があると思うので、そこまでは望めないかもしれませんが、でも、総合的な学習の時間の取組を通して、皆さんが気づいたり、あらためて発見したりしたふるさとの良さや、かわりをもてた人との出会いを、いつまでも大切にしたいと願います。

## 「ことば」も時や場に応じて使いこなせたら

文化庁が2017年に実施した「国語世論調査」の記事が新聞に載っていました。本来の意味が理解されていない例として、「なし崩し」や「げきを飛ばす」が紹介されていました。本来の意味は「なし崩し」＝「少しずつ返していく」「げきを飛ばす」＝「自分の考えを広く人々に知らせ同意を求める」だそうです。調査によると、この意味を理解していた人は2割程度でした。私も、多くの方が答えた、「なかったことにする」「元気のない人に刺激を与えて活気づける」だと思っていました。その一方で、「言葉は正しく使うべきだ」と考えている人の割合は9年前よりも大幅に増えたそうです。また、比較的新しい言葉で浸透してきているのは、「ガチ」とか「タメ」だそうです。50代でも半数近くが使っているようです。SNSのような新しい形のコミュニケーションツールが増え、表現の多様化は進んでいるのも現実です。でも、そんな状況の中、言葉を正しく使うことへの意識が高まっていることに安心しました。3年生は、入試で面接もあることだしね。